



14



13



12



15

7月27日、両選手の母校である常葉大学附属菊川高校で、同校女子ソフトボール部の生徒が、大型スクリーンでオリンピック決勝戦を観戦。試合の動向を静かに見守り、山崎選手の2塁打や渥美選手の「神ゲッツー」のプレーに、大きな拍手を送っていました。(写真12～16)



9



16



10

日本代表金メダルまでの軌跡

【予選リーグ】

7/21		1	2	3	4	5	6	7	R
オーストラリア	1	0	0	0	0	-	-	-	1
日本	1	0	2	3	2	-	-	-	8

※5回コールド

7/22		1	2	3	4	5	6	7	8	R
メキシコ	0	0	0	0	1	0	1	0	2	
日本	0	1	0	0	1	0	0	1	3	

※延長8回サヨナラ

7/24		1	2	3	4	5	6	7	R
日本	0	0	0	2	0	3	0	5	
イタリア	0	0	0	0	0	0	0	0	

7/25		1	2	3	4	5	6	7	8	R
カナダ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本	0	0	0	0	0	0	0	1	1	

※延長8回サヨナラ

7/26		1	2	3	4	5	6	7	R
日本	1	0	0	0	0	0	0	1	
アメリカ	0	0	0	0	0	1	1	2	

【決勝戦】

7/27		1	2	3	4	5	6	7	R
日本	0	0	0	1	1	0	0	2	
アメリカ	0	0	0	0	0	0	0	0	

7月27日、東京オリンピックソフトボールの決勝戦が行われ、日本が2-0でアメリカに勝利。2008年北京大会以来、13年ぶり2度目の金メダルを獲得しました。常葉菊川高校出身の渥美万奈選手と山崎早紀選手は、全試合スタメンで出場。渥美選手は決勝戦で値千金の先制打を放つとともに、守備では「神ゲッツー」と称される併殺プレイで相手の反撃を封じるなど、一躍時の人となりました。山崎選手も決勝戦の第1打席で今大会初安打となる2塁打を放ち、また渥美選手の先制打のおぜん立てとなるバントを確実に決めるなど大舞台で活躍されました。1年の開催延期を乗り越え、見事栄冠を手にしたお二人、そして代表チームの皆さん、おめでとうございます。



11